

(様式1) 実践事例

学校名	大玉村立玉井小学校		校長名	佐藤 一男		
住 所	安達郡大玉村玉井字細田 28 - 3		児童生徒数	2 8 5	学級数	1 4
T E L	0243-48-3302	ホームページアドレス	<a href="http://www.vill.otama.fukushima.jp/">http://www.vill.otama.fukushima.jp/</a>			

## 少人数のよさを生かした指導 ～道徳の時間における実践～

### 1 少人数指導の計画等

- (1) 児童一人一人にきめ細かな指導ができる少人数教育の利点を生かし、学力向上の土台となる望ましい学級、学習集団づくりを推進する。
- (2) 幼・小・中接続の組織である「おおたま学園」としての活動との連携、授業研究を通して、教員の意識改革・指導力向上を図る。
- (3) 「心に響く道徳の授業実践委員会」の研究を通し、児童が自分事としてとらえ、深く考える道徳の授業を展開する。

### 2 実践の概要

#### <道徳授業の充実と改善>

道徳の時間は、道徳的価値を主体的に自覚させ、自分自身のよりよい生き方を考えさせるといった特性をもっている。

私たちは、道徳の時間を「他者尊重があつての自己主張ができる時間」「内容・項目について自分事として考えていくことができる時間」としてとらえている。道徳の時間の中に、道徳的価値の自覚を深めるディスカッションや動的な活動（表現活動を仕組んで自己決定させる）を取り入れ、深く考える道徳の実践に試行錯誤しながら取り組んでいる。

#### (1) 「正直ものさし」で自分の心をはかる（4年生）

授業前段で「正直ものさし」を取り入れ、そこにネームプレートを貼ることで、児童の現在の道徳的価値の自覚を可視化した。その後、グループ内での考えの交流や友達の考えを聞くこと、自分の経験を踏まえた主人公への手紙を書くこと等を通して、「正直」という内容項目について深く考えさせることができた。

終末に「正直ものさし」の自分の位置は変わったかと問うと、「みんなの考えを聞いて変わった」という発言があり、ほとんどの児童が、「正直に言うこと」をこ



れからの生き方に結び付けることができた。

### (2) 役割演技でさらに深く考える(2年生)

「自分の前に困っているおばさんがいたらどうするか」について、ワークシートに書いた心の声をみんなの前で話したり、動作化したりすることを通して、友達と自分の考えを比較することができ、自分の考えを深めることができた。展開後段では価値の四類型（親切にできない・親切にすることが少ない・多い・進んでできる）を用い、普段の自分はどうかをネームプレートを使用して貼らせて振り返らせた。これらの学習活動により、他人に親切にすることについて、自分はこれからどうしていくのか考えることができた。



### (3) 少人数で自由に話し合う(3年生)

グループでの話し合いでは、一人一人が、自分の考えを発表することができた。互いの考えに触れて、「私と同じだね」「そういう考えは良いね」という発言も聞かれた。それぞれの考えがホワイトボードに書かれていくため、児童にとっては可視化されて分かりやすかった。全体の前ではなかなか意見が言えない児童も、少人数グループという安心感から積極的に発言することができた。



## 3 実践の成果と課題

○ 少人数グループを活用し、グループみんなで考えたことをホワイトボードに書き、さらに黒板に貼ることにより児童みんなの考えが板書に生きた形となった。自分の考えが変わった理由について、「みんなで考えたから」という意見が出された。少人数を生かした「問題解決的な学習」を進めた効果である。



○ 全体の前ではなかなか意見が言えない児童も、少人数グループという安心感から積極的に「自分の考え」を発言することができた。

● 「よい意見だね」という認め合いの場面は、少人数グループ内で見られたが、「本当にそれだけでよいのか」という意見の検討や話し合いは見られなかった。少人数グループ内や全体での発表時に、互いの価値観をぶつけ合い、さらに考えを深め合うことができる場面を設定していきたい。